

菊川西中だより

校長室の窓

3年生進路絞込みの時期！

君は文科系？

それとも理科系？



2学期も半ばに差し掛かり、3年生が来年の進路を絞り込む時期になりました。今月は表題のような内容で書いてみたいと思います。

学校ホームページに何度か掲載しましたように、私は「高校理数科」－「大学理学部物理学科」と**理科系一筋**に歩んできました。今年まで多くの子どもたちの進路指導をする中で「理系向きの子と文系向きの子」の違いについて何と無く、考えを持つことができました。

私は時々「理系の人には細かい数字にこだわって理屈っぽく、融通が利かない」と言われたことがありました。しかし、時々「みんな、なぜここにこだわらない？」と思うことや「何でそんなことにこだわる？どっちでも大して変わらないのに！」と思うことがありました。ある講演会を聞きに行った時でした。講師は元テレビの解説委員か何かをしていた人で、『日本語の乱れ』という話でした。その人は「みなさん『一段落』をどう読みますか？10人中9人は『ひとだんらく』と読みます。でもこれは間違った使い方、『いちだんらく』と読まなくてはなりません。……」と色々な例を紹介してくれます。そして最後に「今日は気温が『さんじゅうくど』あったという言い方は間違いで『さんじゅうきゅうど』です。『さんじゅうくど』は『熱がさんじゅうくどある』と言う場合に使うのです。」ここで私はすぐに「何で熱を『ど』で計るの？『℃』は**温度の単位**、熱はエネルギーだから『ジュール』か『エルグ』、最低でも『カロリー』で測らないといけ**ない**のだけれど……。」家内にそのことを話すと、「広辞苑に『熱』の定義としてカロリーで測る熱の他に『病気等で体温が高い状態』という意味がある。」といいます。私は続けて「その定義を採用すると『熱がある』は『そういう状態である』と言う意味でOKだけれど、『熱が出た』、『発熱』とはいえないことになるよね。だって『～の状態が出てきた』ってどういうこと？『彼と彼女に恋愛**状態**が**出てきた**よ』こんな使い方が正しい日本語なの？」……家内「そんな理屈言わなくてもいいじゃない。『熱が出た』でみんな『体温が高くなった』と分かるんだから。」私「それを言うのなら一段落を『ひとだんらく』と読んでもみんな分かるよ。現に講師の先生も**10人中9人はそう読む**って言っていたよ。でも、講師の先生は『10人中9人までが間違った日本語の使い方をしてしまうのが問題だ』と言う趣旨の意見だよ。」家内「……」さて、皆さんはどちらの言い分に賛同されるのでしょうか？

「一段落は『ひとだんらく』と読んではいけない」「熱はエネルギーの単位で測定しなければなら**ない**」どちらも「こだわり」ですが、こだわっている部分が違います。前者は「言葉の**意味は同じ**だけれど、音読みと訓読みを混合して、**使い方が違う**」と言う意味のこだわりで後者は「実験で測定する『熱』と病気の時の『熱』も**同じ『熱』なら同じ単位で測るべき**」と言うことへのこだわりです。極論すると「ほとんど同じものを『違う』と**言い張る**」のが**文系思考**、「**ぜんぜん違うものを『同じ』と**言い張る****」のが**理系思考**ではないでしょうか？さらに言うと「**相違点**」にこだわるのが**文系**、「**共通点**」にこだわるのが**理系**ともいえると思います。

3年生の進路選択において「工業高校」、「農業高校」、「商業高校」のように進学時点で専門に分かれる子もいるでしょうし、「普通科高校」に進学し、2年生になる時に「文理選択」する子もいます。どちらにしても菊西中の子どもたちには「自分がこだわる部分」をしっかりと把握し、自分に合った進路を選択して欲しいと願わずにはいられません。

(文責 校長)